

# DIPS-1 の開発と成果

Development and result of DIPS-1

1968(昭和43)年秋、DIPS-1の開発に着手した。通産省の大型プロジェクトの成果を受けて、経済性の追求、ソフトウェアの標準化、アーキテクチャやインターフェースの統一、信頼性の確保などを目標に進めた。その結果、数々の先端技術に基づき試作機を1971年に完成。1973年には科学技術計算サービス( DEMOS-E )として稼働を開始し、その後の継続的な導入により、以降の技術開発の基盤を確立した。

## DIPS-1 の主な開発技術

最大4台 / システムによるマルチプロセッサ方式を採用し、システムの処理性能を向上。大容量記憶装置にコアメモリを採用し、アクセス高速化のため、ローカルメモリ(8kバイト / 16kバイト)方式を採用。ローカルメモリにはN - MOS IC記憶素子を採用。仮想記憶方式を採用。

